

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

こまつ版まち・ひと・しごと創生プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

石川県小松市

3 地域再生計画の区域

石川県小松市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口は2005年の109,084人（国勢調査）をピークに減少に転じ、2015年には106,919人まで減少し、さらに国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年には9万人を割り込むと見込まれている。背景として出生数の低迷や高齢化の影響による自然減に加え、高校・大学時の転出等若年層の流出による社会減があった。若者流出による働き手（生産人口）不足に加え、高齢化社会の加速等による社会保障費の増加等が課題となっている。

このような課題に対し、本市では2015年10月に「小松市都市デザイン」を策定し、”2025年に人口105,000人以上“という目標を掲げるとともに、そのアクションプラン（行動計画）として、本市の地方版総合戦略である「こまつ創生総合戦略」を策定し、地域の高等教育機関の再編による公立4年制大学の創設、出産・子育て支援策の充実、新しい産業・しごとの創出など、様々な取組みを実行してきた結果、若い世代の転出入がプラスに転じるなど効果が表れつつある。

しかしながら、少子超高齢化は2040年頃に向けて本格化し、人口減少の流れは更に加速することが見込まれており、成り行きのままでは、地域経済が活力を失い、コミュニティを維持することも難しくなっていくことが想定される。一方で、2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2025年の大阪・関西万博などを契機に更に拡大が見込まれるインバウンド、2023年の北陸新幹線敦賀延伸などは、国際空港を抱える本市としては、成長・発展につなげるべき大きなチャンスでも

ある。

本市として、次の基本目標を掲げ、時代や社会の変化を先取りし、ICTやAIなどのテクノロジーも活用しつつ、引き続き、子育て支援や仕事づくり、交流人口・関係人口の増加対策に取り組み、人口減少の克服や活力ある地域づくりを進めるものとする。

- ・基本目標1 日本一の学びのチカラで、まちの活力と未来を創生
- ・基本目標2 アクセスとテクノロジーを活かし、北陸一の国際都市を創生
- ・基本目標3 たゆまぬ改革で、多様な人びとのしごととまちの成長を創生
- ・基本目標4 やさしさと幸せを追求し、家族みんなの笑顔を創生
- ・基本目標5 人と自然のハーモニーで、世界で輝く未来都市を創生

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始 時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	若者転出入 (15~29歳)	転入超過 38人/年 (15~19年 平均)	転入超過 100人/年 (20~24年 平均)	基本目標1
	若者就業率 (20~34歳) (学生等の非労働人口を除く)	96.0%	98.0%	
イ	交流人口	396万人	700万人	基本目標2
	外国人宿泊者数	25,899人	50,000人	
ウ	ものづくり産業力 (製造品出荷額等)	6,151億円	7,000億円	基本目標3
	将来負担軽減 (市債残高)	1,219億円	1,000億円	
エ	合計特殊出生率	1.66	1.80	基本目標4
	いきいきシニア率	69.8%	75.0%	
オ	ようこそ小松 (転入者数)	3,974人	5,000人	基本目標5

	住みよさランキング	総合16位	総合 10位以内	
--	-----------	-------	-------------	--

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

こまつ版まち・ひと・しごと創生プロジェクト

ア 日本一の学びのチカラで、まちの活力と未来を創生する事業

イ アクセスとテクノロジーを活かし、北陸一の国際都市を創生する事業

ウ たゆまぬ改革で、多様な人びとのしごととまちの成長を創生する事業

エ やさしさと幸せを追求し、家族みんなの笑顔を創生する事業

オ 人と自然のハーモニーで、世界で輝く未来都市を創生する事業

② 事業の内容

ア 日本一の学びのチカラで、まちの活力と未来を創生する事業

(1) 特色ある学びのさらなる充実と、世代間で共有

- ・学校での理科科学・プログラミング・国際教育，仕事体験，ICTの積極活用

- ・市民大学等でのリカレント充実をはじめ，地域全体での産業人育成を推進 等

(2) ひとつづくりの機能強化とまち全体への展開

- ・駅周辺を「学びのゾーン」。多様なひとつづくり産業を集積 等

(3) 教育目標「学びの道しるべ」をリニューアルして展開

(4) 小中一貫の義務教育学校の開校と魅力充実

(5) 市立高校や公立小松大学をNEXTステージへ改革・進化

- ・高大連携クラスで高校での専門カリキュラムやキャリア教育を

推進，多様な機関との連携強化，留学・インターンシップ，さらなる教育高度化 等

- (6) 国際化や多様性・インクルーシブへの理解促進やボランティア文化の普及
- (7) 共生社会やホストタウンをリードする，人びとの多様な活動を推進
・ゆるスポーツや音楽・芸術，学びなどの活動支援や施設充実 等
- (8) 国内外で躍動するアスリート・アーティスト・サイエンティスト等を育成
- (9) トップレベルの大会に対応できる施設機能の充実と開催誘致 等

イ アクセスとテクノロジーを活かし，北陸一の国際都市を創生する事業

- (1) 2023 年春，北陸新幹線小松開業と利用促進
・通勤・通学を含む北陸をはじめ広域での開業後の利用拡大 等
- (2) 小松空港の国際化と機能拡充
- (3) 小松にしかできないレール（新幹線）&フライト（国際空港）の魅力アップ
- (4) ビジネス・観光等に資する広域道路網と北陸新幹線大阪全線整備を推進
- (5) 空港周辺・駅周辺の都市機能をレベルアップし，際立ったエリアに
・New臨空ゾーンに向けた土地区画整理，両拠点を結ぶ自動運転ビークルの導入 等
- (6) Society 5.0 の未来技術を積極活用し，デジタルアクセス力も向上
・5Gなどの環境整備や，遠隔技術を始めとした新技術の多様な分野での利活用・普及を促進 等
- (7) 企業本社機能や教育研究機能，政府機関等の受け入れを促進
- (8) 「歌舞伎」「科学とひとつづくり」「環境王国」「乗りもの」「珠玉と石の文化」「水郷のまち」「加賀国府ロマン」の7大ブランドを活かしたまちづくり戦略
- (9) 特長を活かした国内外のMICEや大会等の誘致と開催支援 等

ウ たゆまぬ改革で、多様な人びとのしごととまちの成長を創生する事業

- (1) 理科教育の充実や人づくり産業の集積，シニア等の活躍や人材の育成・指導を地域全体で進める仕組みづくり
- (2) グローバルで活躍する企業のノウハウや技術力・危機対応等を，農林業や中小企業を含むあらゆる産業で展開し，生産性や競争力，管理能力を向上
- (3) 共稼ぎ時代での仕事の改革を積極推進
 - ・リモートを始め，新技術の活用や，副業を含む多様な働き方の追及 等
- (4) 企業支援やフォローアップ，活動拠点づくり等により，女性やシニア，若者の活躍を応援
- (5) 地元就職・企業支援，インターンシップ等により学生等の就職機会を拡大
- (6) アクセスを活かした新産業団地への企業立地を促進
- (7) 農林業の高度化・6次産業化や，新たな製品の開発と生産拡大，未利用品活用を高め，ブランド価値向上と国内外への販路を拡大
- (8) 乗りものに代表されるものづくり技術や伝統産業，食文化など，地域の強みを活かした魅せる産業観光を推進
- (9) ロボットや超高速通信など新技術を駆使して，消防・救急等の機能を強化
- (10) 防災・減災，感染症対策など，強靱なまちづくり
 - ・河川改修など水防力向上，避難所の機能強化，公衆衛生，備蓄や医療体制の充実 等
- (11) アウトソーシングや新技術の積極導入，公共施設マネジメントの推進，広域行政改革など，新時代にふさわしい自治体に進化 等

エ やさしさと幸せを追求し、家族みんなの笑顔を創生する事業

- (1) 妊娠期からシニアまで切れ目ない包括的な相談・サポートの機能を強化
- (2) 出合いや結婚のアニバーサリーづくり支援
 - ・魅力あるスポット・施設づくり，民間による多種多様な活動を

積極支援 等

- (3) 妊娠・出産・子育ての経済負担の軽減や子育て施設を充実
- (4) 先進の定住促進制度や空き家対策で、都市のスポンジ化に対応
- (5) 家族でくらしたくなるまちづくり
 - ・防犯や交通安全，ICTで便利な住環境 等
- (6) 大学等と連携し，家族の健康をまるごとサポート・一元管理
 - ・健康管理や健康づくり，健診・食育・予防接種等の促進，受動喫煙防止 等
- (7) 地域や性別，年齢別など特有の課題を分析，健康福祉をさらに推進
 - ・生活習慣や食生活改善，フレイル予防，レディスプラン作成 等
- (8) 文化・地域活動等を通して，シニアの活躍を積極応援
- (9) 市民病院の医療拠点化と地域医療との連携，在宅医療の支援充実
- (10) 時代を先取りした福祉の充実
 - ・手話をはじめ多様なコミュニケーションの促進，再犯防止のリ・スタート支援 等
- (11) 外国人住民・家族の地域づくり「暮らす・学ぶ・楽しむ」を総合サポート
- (12) 自主自律の地域づくり
 - ・地域協議会の設立促進，地域での学びや防犯・防災，共同ビジネス，地域交通など積極的な活動支援 等
- (13) 多様な人びとの活躍で地域防災を向上 等
 - ・消防団，防災士，しみん救護員 等

オ 人と自然のハーモニーで、世界で輝く未来都市を創生する事業

- (1) 里山・水郷エリアの魅力アップと新たな拠点づくりで国内外からの多様なステイや移住，就職等を推進
 - ・観光や食，歴史探求，大学等による学術研究や創作活動推進 等
- (2) ビジネス・教育・観光等でのグローバル交流と小松ファンを拡大
- (3) 里山・山林の保全と資源の有効活用を促進
 - ・木質バイオマスなど再生可能エネルギー，酒米など高付加価値作物への転換やブランド化，in・outの海外展開支援，ジ

ビエや規格外品の活用 等

- (4) 環境共生の輪を広げ、まちの風格や雰囲気アップと定住・交流拡大
・フローラルこまつ，白砂青松再生，まちの美化・自然保護 等
- (5) 市民や企業などと一緒に，環境負荷軽減へのエネルギー改革を推進
・再生可能エネルギーへ転換，廃棄物削減や低酸素社会への計画・
制度づくり，SDGs 宣言の拡大 等
- (6) 防災・減災，感染症対策など，危機意識と対応力を一層強化
- (7) SDGs ゴールへ，経済・社会・環境分野のバランスを重視した循環社会を形成
- (8) 金融機関等と連携して，社会や環境向上に資する企業活動を促進
- (9) 多様なパートナーシップでまちづくりをレベルアップ
- (10) ボランティアや寄付文化（ふるさと納税）など，人びとの行動・意識の変化をまちづくりに大いに活かす 等

なお，詳細はこまつ創生戦略 PART 2 のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4 の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

1,000,000 千円（2020～2024 年度）

⑤ 事業の評価の方法（PDCA サイクル）

毎年度 8 月を目途に，本市の“こまつ創生会議”（本市に関わりのある産学官金労等の各界関係者・識者をメンバーとし、こまつ創生総合戦略に基づく政策の事後検証や、総合戦略の期中見直し等に係る意見・提案をいただくもの）により、効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本市公式WEB サイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2020 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

2020 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで